

**ダイキン工業株式会社 2017年3月期決算
アナリスト・投資家様向け説明会 質疑応答
(2017年5月11日、東京)**

Q：米州市場での住宅用ユニタリーエアコンの販売状況について。

A：2016年度は、自前販売店の新設など販売網強化を推進したことにより、業界需要の伸びを上回って販売を伸ばした。2017年度も、競争力強化の取り組みを加速、新工場での本格的な生産開始、開発の現地化による商品ラインアップの拡充に加え、引き続き自前販売店の拡大や営業人員の増強など販売網強化を図り、事業拡大につなげていく。

Q：ベトナム市場の流通在庫の水準について。

A：猛暑の追い風が落ち着いたこともあり、第3四半期以降の販売がスローダウンしたことで、流通在庫は平均的な水準より多くなっている。一方、4月下旬以降は好天が続いており、足元では在庫の解消が進んでいると認識している。市場自体は、成長トレンドを持続している。

Q：インド市場のポテンシャルをどのように見ているか。

A：非常に暑い国であることに加え、人口も多く、市場のポテンシャルは大きい。足元では、モディ政権下で税制改革が進展する見通しであり、物品・サービス税の複雑さが解消されれば、市場拡大のペースはさらに加速すると見ている。また、環境規制の強化も進んでおり、R32を採用したインバータエアコンの普及拡大には大きな追い風となる。2017年度中にはインドで新たな工場の稼働を予定しており、今後さらなる拡販ができる市場であると考えている。

Q：原材料価格の高騰による2017年度業績への影響をどのように見ているか。

A：営業利益ベースで対2016年度▲180億円の影響を見込んでいる。事業セグメント別には、空調事業に係る影響が▲170億円、化学事業に係る影響が▲10億円の想定。

Q：2016年度期末配当金案の70円に対して、2017年度の期末配当金が65円と減配の計画になっているが、改めて配当政策について確認したい。

A：2017年度の配当予想については、事業環境の先行きが不透明なこともあり、年間配当金130円の据え置きとさせていただいた。今後の成長拡大に向けた先行投資を積極的に実行しつつ、短期利益もしっかりと確保し、引き続き株主の皆様への還元の充実を図りたい。

以 上